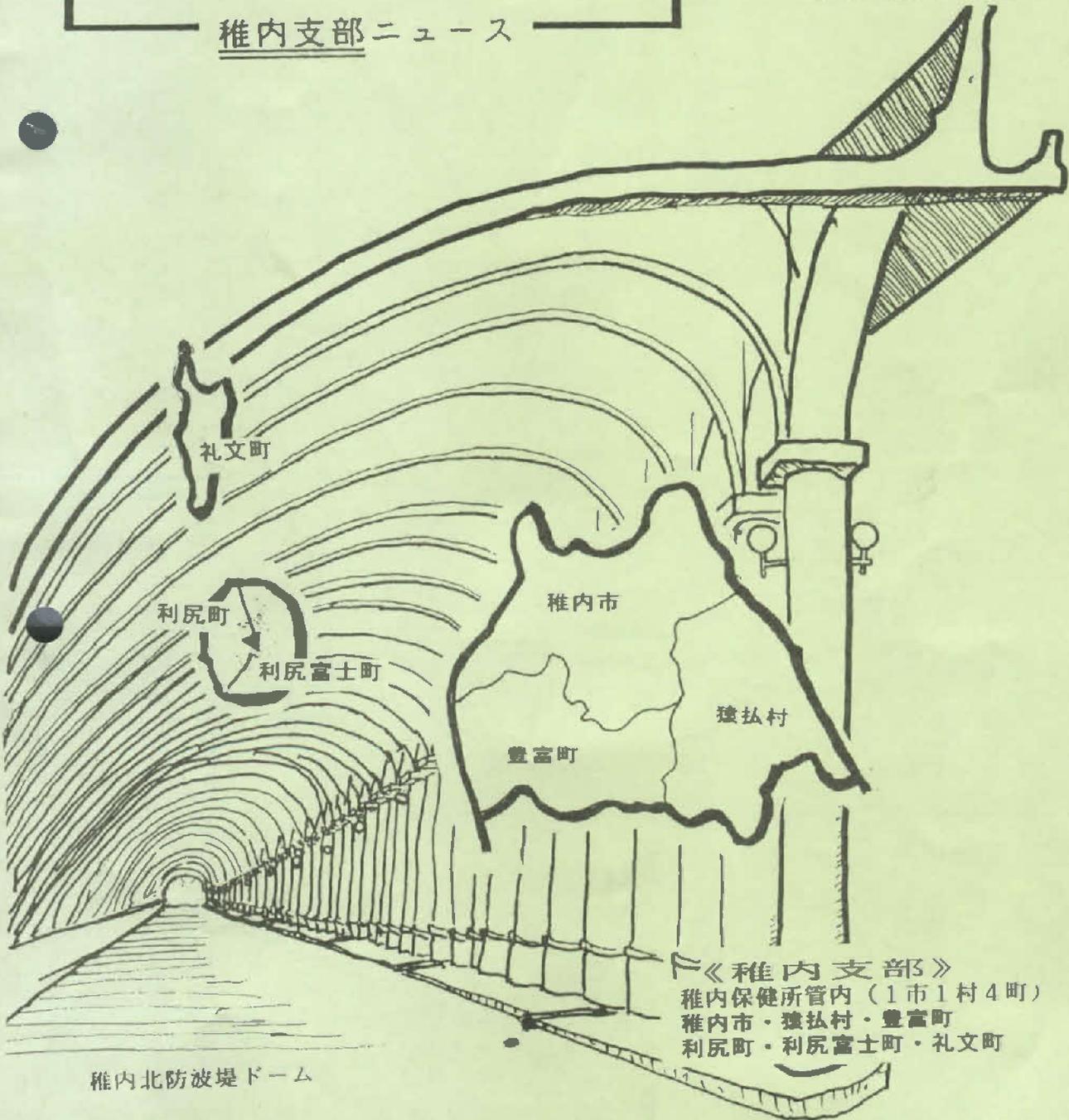


HSK なんれん

さいほく

稚内支部ニュース

昭和48年1月13日
第3種郵便物認可
HSK通巻331号
発刊1999年10月10日
毎月10日新・1部100円
(会費に含まれています)
編集 財団法人
北海道難病連稚内支部
発行 北海道身体障害者団体
定期刊行物協会(HSK)



稚内北防波堤ドーム

《稚内支部》
稚内保健所管内(1市1村4町)
稚内市・猿払村・豊富町
利尻町・利尻富士町・礼文町

も く じ

「がんばれ難病患者日本一周激励マラソン」 1

1999年度

運営委員総会の報告 3

1998年度収支決算報告書

1999年度収支予算案

支部役員名簿 5

1999年度

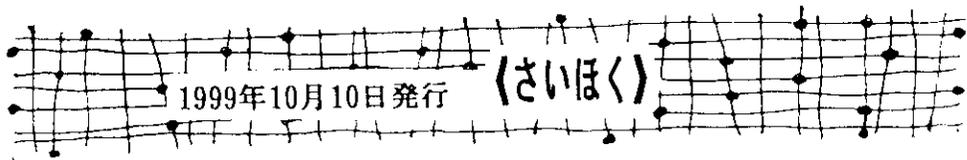
活動状況と今後の計画 6

情 報 8

医者にかかる⑩箇条

「上乗せ・横出しサービス」って何？

編集後記 10



『がんばれ難病患者 日本一周激励マラソン』

一步一步に熱い思いをこめて
1999年7月25日～11月29日

私たちは切実な願いと

21世紀への希望をもって走ります。

- 1 全ての難病の原因の究明と治療方法の開発を一日も早く！
- 2 全ての難病・長期慢性疾患の医療費を無料に！
- 3 難病患者・障害者・高齢者が暮らせる年金の給付を！
- 4 公的介護保障制度の確立を！
- 5 総合的な難病対策の早期確立を！
- 6 医療被害・薬害の根絶と国家賠（補）償制度の確立を！
- 7 全国都道府県に難病センターの建設を！
東京に全国患者会館の建設を！





宗谷岬を出発した沢本和雄さんら

この日本一周マラソンは、全国で約200万人と推定される難病患者の各種救済対策の推進をスローガンに掲げ、47都道府県はすべて訪問し知事に地域の皆さんと一緒に要望書を手わたし、そして寄せ書きに激励のサインをいただくことにしております。

11月26日に東京に着き、厚生省に難病患者の実情と対策の充実を訴えたあと再び札幌に戻ってき全行程6,122kmに及ぶ一周マラソンを終える予定です。

マラソンの成功のために、そして全国患者会館建設めざして
募金のお願い

郵便振替 02730-3-28384

北海道難病連日本一周マラソン募金

7月25日朝8時最北端の碑の前で、宗谷岬特有の横なぐりの雨の中で、(財)北海道難病連や日本患者・家族団体(JPC)主催する日本一周マラソンが横田稚内市長をはじめ、中村稚内身障者協会会長、小林(JPC)事務局長など多くの御来賓のほか、稚内支部から菊支部長と役員5名が出席して出発式が行われました。

ランナー沢本和雄さんから決意表明を頂、伊藤たておデレクターからサポートスタッフの紹介のあと、横田稚内市長の壮行のことばと、多くの皆さんの声援をうけて次の訪問地豊富町に向け、力強く出発しました。

☆ 1999年度
 運営委員総会の報告 ☆

去る6月10日、稚内市保健福祉センターに於いて、1999年度の運営委員総会が開催されました。

議事は、1998年度の活動報告として、総会及び役員会等の会議が4回開催されたこと、全道集会・稚内市ふれあい広場等への参加と、枝幸町で昨年11月に南宗谷支部結成大会が開催され、枝幸町・浜頓別町・中頓別町、歌登町の4町が独立したこと、今年2月に稚内市に於いて、道北地区役員研修会が開催されたことなどが報告され、引き続き1998年度の収支決算報告があり、報告通り承認されました。

次に1999年度の活動計画案と収支予算案が提案され、原案通り承認されました。最後に、役員改選が行われて総会を終了しました。

総会で承認可決された、収支決算と予算案及び新役員は次の通りです。

財団法人・北海道難病連稚内支部・決算・予算報告書

(決算:日 1998年4月1日～至 1999年3月31日 予算:日 1999年4月1日～至 2000年3月31日)

(収入の部)

科 目	98年度決算	99年度予算	摘 要
支部運営補助金	162,500	162,500	道難病連補助金
市町村 補助金	20,000	20,000	猿払村 利尻町
その他の助成金	50,000	50,000	稚内市社会福祉協議会
参加費 収入	539,020	200,000	全道集会 研修会
寄付金 収入	16,000	10,000	
協力会 還元金	36,750	40,000	道難病連協力会
募金箱 還元金	15,047	20,000	道難病連募金箱
販売事業 収入	12,011	15,000	しめ飾り・花火販売還元金
その他事業収入	19,200	20,000	全道集会協賛広告還元金
受取利息 収入	48	50	普通預金利息

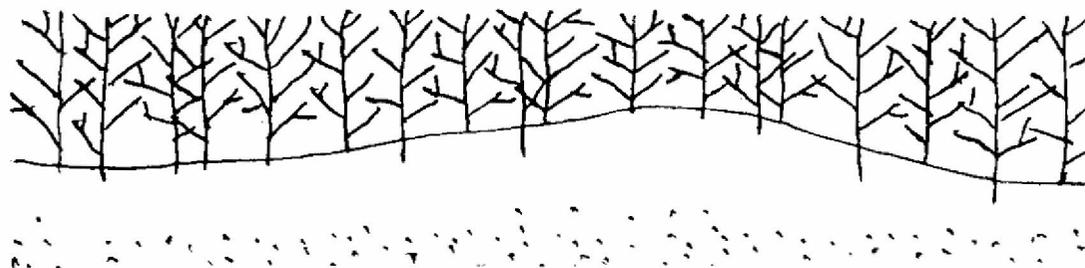
科 目	98年度決算	99年度予算	摘 要
雑 収 入	1,000		
前期繰越金	70,321	140,096	
収入 合計	941,897	677,646	

(支出の部)

科 目	98年度決算	99年度予算	摘 要
会 議 費	29,291	70,000	
支部役員会	27,940	60,000	役員会交通費他
本部役員会	1,351	10,000	本部総会出席費用
事 業 費	736,351	513,000	
地区集会費		50,000	地区集会開催費
全道集会	271,270	250,000	全道集会参加費用
機関紙誌費		40,000	HSKさいほく発行
研 修 会	420,885	50,000	道北地区役員研修会費用
レク交流会	6,939	30,000	合同交流会
活 動 費	37,257	80,000	慶弔費・カンパ・JPC活動費
負担分担金		10,000	関係団体分担金
HSK 負担金		3,000	第3種郵便認可負担金
維持運営費	36,159	41,000	
事務用品費	2,466	3,000	事務用品
通 信 費	32,073	33,000	F A X 他
交 通 費	1,620	5,000	
予 備 費		53,646	
次期繰越金	140,096		
支出 合計	941,897	677,646	

支部役員名簿

役職名	氏名	所属部会	住所	電話
支部長	菊 清	後靱帯部会		
事務局長	横 山 考	肝炎部会		
幹事	大塚 満 寿美	肝炎部会		
〃	銭 丸 修一	後靱帯部会		
〃	畠 山 倫子	リウマチ部会		
〃	本 間 秀 秋	脊小の会		
〃	山 口 末 子	脊小の会		
会計監査	志 賀 実	後靱帯部会		
会計監査	植 進	腎臓病部会		
運営委員	畠 山 隆	後靱帯部会		
〃	畠 山 清一	リウマチの会		
〃	足 立 清 栄	腎臓病部会		
〃	森 山 恵 治	腎臓病部会		
〃	加 藤 幸 子	腎臓病部会		
〃	石 内 幸 子	橋本病部会		
〃	枡 木 一三	オストミー部会		
〃	久 保 田 祥 樹	IBD部会		
〃	大 須 賀 文 子	パージャー部会		
〃	池 田 英 子	無筋力症部会		
〃	福 岡 正 彰	後靱帯部会		〇一
〃	西 館 京 子	橋本病部会		



1999年度支部

活動状況と今後の計画

稚内支部の本年度行われました、活動結果の報告と今後の活動予定をお知らせします。

◎ 第5回 肝ガン検診を実施しました。

去る7月18日(日)午前9時から正午まで、稚内市保健福祉センターで北海道肝ガン検診団(スタッフ23名、エコー5台)による肝ガン検診が行われました。

当日、60名の予約者全員が受診して自分の健康状態をチェックしておりました。また、8月29日午後1時30分から検診団の医師が来市していただき、肝臓病検診結果の講演と出席者全員の個別相談をして頂きました。

◎ 横田稚内市長と懇談をしました。

7月19日午前9時20分から約40分市長応接室で、今年新しく稚内市長になりました横田耕一市長に、菊支部長ほか4名の支部役員がお会いし、難病患者の実態や活動状況などをお話し、難病連の理解を深めていただき、また、7月25日の日本一周マラソンの宗谷岬における出発式に出席して頂くことをお願いしました。

◎ がんばれ難病患者日本一周激励マラソン 宗谷岬出発式に参加しました。

7月25日(日)午前8時 宗谷岬で行われました出発式に、多くの関係者が参加して激励しました。

◎ ふれあい広場に参加しました。

9月5日(日)開催されました、稚内市社会福祉協議会主催のふれあい広場に、菊支部長ほか役員が午前中福祉パーレードに参加しました。また、午後から稚内市体育館において、難病連懸案事項の国会請願署名をお願いしました。

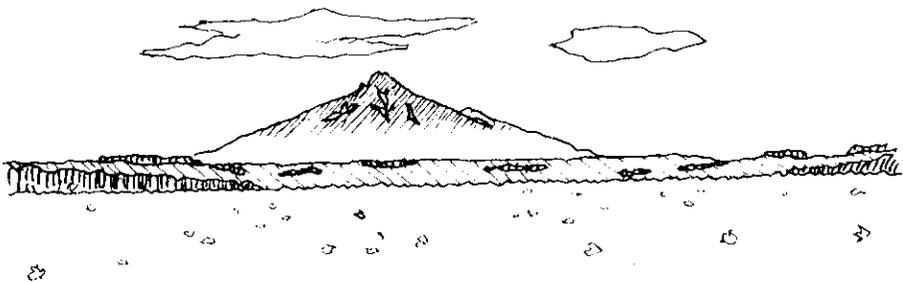
これからの活動予定

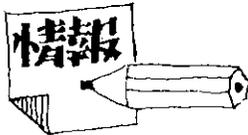
◎ クリスマス パーティーの開催

ここ2年、都合により行われませんでした稚内支部のクリスマスパーティーを、12月5日(日)に(場所検討中)開催する予定です。近くになりましたらご案内しますので出席方よろしく申し上げます。

◎ 道北地区役員研修会

2000年3月に、本年度は南宗谷支部が担当で、枝幸町で開催されることに決まりました。





昨年7月に、厚生省が「医者にかかる10箇条」を発表しました。その⑨⑩を厚生省の了解を得て、改訂し「新・医者にかかる10箇条」として、COML (コムル) というところが小冊子を発行しました。左はその小冊子のコピーです、参考にして頂ければと思い掲載致します。

COMLは医療を消費者の日

でとらえようと、1990年9月に活動をスタートした、大阪市の市民グループです。患者一人ひとりが「いのちの主人公」「からだの責任者」としての自覚を持ち、主体的に医療に参加していこうと呼びかけています。

代表者の辻本好子氏は、北海道新聞・生活欄の「患者塾」「新患者塾」を担当され、昨1998年9月には、わっかない市民大学の講師として来雅、「患者学のスヌメ」と題する講演をされました。

いしゃ にかかると 10 箇条 かじょう 医者にかかる10箇条

あなたが「いのちの主人公・からだの責任者」

- ① 伝えたいことはメモして準備
- ② 対話の始まりはあいさつから
- ③ よりよい関係づくりはあなたにも責任が
- ④ 自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
- ⑤ これからの見通しを聞きましよう
- ⑥ その後の変化も伝える努力を
- ⑦ 大事なことはメモをとって確認
- ⑧ 納得できないときは何度でも質問を
- ⑨ 医療にも不確実なことや限界がある
- ⑩ 治療方法を決めるのはあなたです

ささえあい医療人権センター COML

上乘せ・横出しサービスって何？

来年から始まる、介護保険制度の欠陥を補うための方法として、「上乘せ・横出し」サービスということが、言われるようになりました。9月18日の読売新聞に、その解説が掲載されていたので、ご紹介します。



丸洗い・乾燥、
や給食、布団の
ていく際の車代
どの施設に連れ
護老人ホームな
年寄りを特別養
福社関係者など
の間で想定して
いるのは、お

定義
000年四月からサ
は、保険者となる市町村が
は、介護保険法で
要介護度ごとに、国が定めた各種サービス
の支給限度額を増額することができま
これを通称で「上乘せサービス」と言っ
ます。ただ、財源は六十五歳以上の第一号被
保険者の保険料を使うことが規定されてお
現役世代を中心とした四十歳から六十四歳ま
での第二号被保険者の保険料から支払う介護
給付費交付金や、国、都道府県の公費を使う
ことはできません。
「横出しサービス」は、介護保険法に定め
ているサービス以外に、市町村が行う独自の
サービスのことを言います。この財源も、上
乗せサービスと同様に第一号被保険者の保
険料だけに限定されています。どのようなサ
ービスを行うかは市町村に任されていますが、
福祉関係者などの中で想定しているのは、お

現状

これまでも、都道府県や
市町村によっては、たとえ
ば七十歳以上（寝たきりな
どは六十五歳以上）を対象とした医療保険制
度である老人保険制度の対象年齢を六十八歳
に引き下げるなど、独自の施策を行ってきま
した。一上乘せ・横出しサービスも、高齢
者福祉の充実を図るためには必要なことで
し、市町村の積極的な対応が望まれます。
ただ、財源が六十五歳以上の高齢者の保険料
に限定されているため、市町村のサービス内
容に格差が生まれることが予想されます。
厚生省が七月下旬にとりまとめた市町村の
保険料（中間報告）を見ると、最も高い自治
体が月額六千二百四円、最も低い自治体が同
千四百九円で、保険料格差は実に四・四倍に
上がっています。

展望

読売新聞社が八月下旬に
実施した世論調査でも、半
数以上の人が「保険料の負
担が大きい」と答えています。こうした中で
「上乘せ」・「横出し」サービスを実施する
ことは容易ではなく、多くの市町村は頭を抱
えて居ます。

介護保険法ではこのほかに、高齢者の保険
料を財源にして、保健福祉事業を行うことも
できます。対象者は被保険者本人だけでなく
介護する家族なども対象になります。事業と
して考えられているのは、介護に関するさま
ざまな情報提供や介護教室の開催、家族のた
めのリフレッシュ事業などで、これにどう対
応するかも注目されます。

編 集 後 記

会員の皆様、その後如何お過ごしでしょうか？
今年の夏は例年に無い暑さの連続で、闘病生活を送ってられる皆様には、大変難儀な事だったと推察致し、心よりお見舞いを申し上げます。

支部の機関誌「さいほく」も、もっと早く発行しなければならなかったのですが、誠に勝手乍ら夏休みをさせて頂き、少し涼しくなりましたので、漸く本年度第1号を、お届け致します。

今回は、編集スタッフも夏バテで、原稿も間に合いませんでしたので、取り敢えず、年度初めよりの活動の経過報告のみで勘弁して頂きました。

次号の発行は、来年1月頃を予定しております。
尚、次号の内容は今までと趣を変えて、会員各位よりの投稿を主体に、編集を致したいと思います、

従って皆様よりの投稿がなければ発行できませんので、一人一筆どんな事でも結構ですから（例病状経過・現況報告・川柳・随想・要望等々…）同封の原稿用紙に記入の上、事務局までお送り下さいますよう、お願い申し上げます。

向寒の折柄、お身体には充分御自愛下さい。

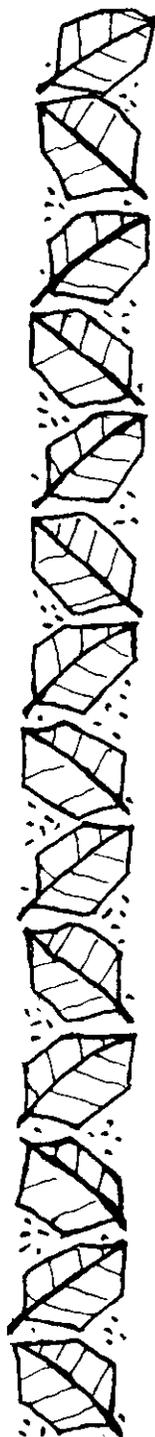
（ 銭丸 記 ）

原稿送付先（事務局）

☎097-0024

稚内市宝来3丁目2-1 横山 考 方

北海道難病連稚内支部 事務局





財団法人—北海道

難病連

☆私たちの住んでいる地域の医療・地域の福祉

地域の活動を！！

☆難病患者・障害者・高齢者が

安心して暮らせる社会を！！

HSKなんれん「さいほく」

編集／財団法人北海道難病連稚内支部

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

1999年10月10日発行 HSK通誌331号

発行人／北海道身体障害者

団体定期刊行物協会

細川久美子

札幌市西区八軒8条東5丁目4-18